

植物と平和

8月6日は広島原爆の日です。今年で広島は被ばく69周年を迎えます。原爆にもめげずに人々を励まし続けて今もその命をつないでいる被ばく樹が広島にはたくさんあります。8月6日を迎えるのにあたって、少し植物と平和について考えてみました。



シダレヤナギ

例えば、あるこの写真のこども文化科学館（原爆ドームの近く）の東側の、大きく枝を広げたヤナギの大木は爆心地から450mで被爆したシダレヤナギです。戦前は、このあたりに西練兵場があり、シダレヤナギが数多く植えられていたようですが、たった1本、生き残りました。樹高8.0m、幹周は2.00mあります。この他にも被ばく樹はたくさんありますが、興味のおありの方は下記を開いてお読みください。

http://www.hiroshima-navi.or.jp/sightseeing/hibaku_ireihi/jumoku/

広島には原爆に負けずに人々に寄り添ってくれた植物がありますが、世界中ではどうなのでしょう？最近発行された「植物と人間の絆」（吉長成恭 監訳 創森社刊）ではその”第5章 療法としての園芸”の最終節「植物の性質」には：

『植物は永続的な時間の価値を語っています。植物は人々よりも地球に長く存在してきました。これからも、もちろん人類よりさらに長く存続するでしょう。ヒメシバは核攻撃にも生き延び、そして生長し続けます。植物には生来の美しさがあります。植物は秩序をもって生きていくこと、つまり、穏やかであることの感性について語りかけます。植物は視覚的な美しさのみならず、大切な平和の意味を伝え、植物とともにいることが人々に争いやもめごとがなく周りが穏やかであるというメッセージを贈るのです。』

と記載されています。

このように、植物は人間と共にいて、平和の意味を伝えると世界中で認知されています。

他の植物としては、オリーブもまた、鳩と一緒に平和のシンボルとして知られていますが、どうやら聖書に出てくるようです。



ヒメシバ



オリーブ

【最初にオリーブが出てくるのは、旧約聖書・創世記の「ノアの箱舟」の部分。大洪水の後、箱舟からノアが鳩を放つと、鳩はくちばしにオリーブの葉をくわえて戻ってきたとあります。有名な一場面です。ここから、オリーブは鳩とともに、平和のシンボルとされました。それで花言葉も「平和」。国際連合旗にも使われています。オリーブはモクセイ科の植物で、樹高6～10mの常緑樹どんな荒地にもよく耐えて生育するようで、主に地中海沿岸一帯で栽培され、大変長命な木で、樹齢は数百年に及び、中には1000年以上のものもあるそうです。5～6月に小さな白い花を咲かせ、秋になると2cm くらいの実がなってきた、熟すと紫黒色になります。その実が食用となり、また実から搾り取った油は、食用、薬用など広く日常生活に用いられました。不乾性油としてはオリーブ油にまさるものはないそうです。食用のほか、ケガの際の外用薬として用いられたり、化粧液、灯火の燃料として用いられました。】

広島では8月に入ると人々が8月6日の”原爆の日”を思い、平和の尊さや原爆を二度と使ってはいけないと誓って、被ばく樹などの樹木に囲まれて身近に平和のありがたさを実感しています。

(ひろしまね園芸福祉協会 記)